

## 第2回農業者のための 経営塾レポート

### 税務と会計の基礎知識

次のような流れで精巧なレジメをご用意の上、お話を進めていただきました。

- 【1】 税務と会計の関係…会計が基本(基礎)
- 【2】 会計帳簿組織…会計で用いる帳簿の体系
- 【3】 簿記の基本的考え方
- 【4】 会計処理の原則的な考え方
  - (1) 収益の計上時期…まず収益を認識する。
    - 売上の把握
  - (2) 費用配分と収益費用対応
    - 次に収益に対応する費用を抜き出す。
- 【5】 証憑書類＝原始資料の揃え方



#### 講師プロフィール

小野瀬剛氏  
小野瀬税理士事務所 代表  
水戸市生まれ  
茨城高校卒業、茨城大学卒業  
都内及び県内の税理士事務所勤務を経て、平成3年税理士試験合格、平成10年4月水戸市見和にて独立開業をされました。  
茨城県農業総合センター税法講師就任、常陽産業研究所税務コンサルタント、経営革新等支援機関認定などの経歴

- ①財務と会計の関係は会計が基本であり、税務は最終的に行うことです。従って日常的な会計の処理をきちんと行っていただきたいと思っています。  
農業は他の事業と同じで、資金を投入し、農産物を栽培・育成等し、それらを販売して資金を回収する、それを反復継続する繰り返しです。ということは、これらの事業を数値化して計測しなければ、経営も成り立たないし、何がどうなっているのかわからないこととなります。事業の一連を数値で置き換えて計測する作業が「会計」であり、その計測方法のルールが簿記なのです。

- ②簿記のルールに則った記帳シート（損益計算書・貸借対照表）の作成は、今やパソコンで簡単にできますので、是非やってみてください。
- ③月々の会計処理をきちんとやることは、農業を経営として考え、数値として捉えていくことです。その結果として、実績と投資や拡大計画に繋げていく重要な要素になります。
- ④一定の期間内にいくら儲かったかということを知るためには、具体的な財産である現金の増減、普通預金の増減、売掛金の増減、あるいは負債である買掛金の増減、未払金の増減等の財政状態を明らかにすればよいということになります。



#### 『受講者の声』

会計や税務というと堅苦しい感じと、何をどうしたらいいのか雲をつかむような感覚もあったのですが、今回の講習はとても聞きやすく、理解が進みました。まず取引は記録として残す必要があるので、銀行口座を通して記帳し、なるだけ現金取引を減らすということは実践できそうなので取り組みようと思います。また会計とは、資金を投入し、農産物を栽培・育成等し、それらを販売して資金を回収する。その反復継続する行為が事業ということですが、その実態の記録が会計であり、問題点の把握や良い点を伸ばすためにも重要であることが分かりました。

## 会長挨拶【第2回経営塾】

今回は東証一部上場のラーメン屋である「日高屋」の社長の話をさせていただきます。

日高屋の社長は、会社を立ち上げる前は職を転々としていたそうです。ラーメン屋のアルバイトしかやったことが無かったので、ラーメン屋に務めたそうです。そのラーメン屋が潰れ、大家が家賃を払えば存続させるということだったので、自分の店舗を持つようになりましたが、売上が伸びませんでした。そこで、ダメ元で深夜の3~4時まで営業してみたところ、工場の深夜帯勤務の帰宅する方が多く来店するようになり、深夜帯の売上が非常に伸びました。それまで深夜まで営業していたラーメン屋は殆どありませんでしたので、思わぬところに需要がありました。

その後、ラーメン店では敬遠されていたテナント料の高い銀座に店舗をオープンさせ、がむしやりに働きました。テナント料が高く敬遠されていた場所だったので、お客さんが意外なほど多くいたそうです。それで忙しくて忙しくてどうしようもないということでした。結果として見事に銀座で成功を収めた後、日高屋は坪単価が高い場所に次々に出店していきました。「坪単価が高いところで勝負しないとイケない。どんなに地価が高くとも、そこで勝負してみよう。」と悟り、それを実現してきた行動力と意思の強さに脱帽する思いでした。

日高屋の社長の話を聞き、農業経営とは職種は違いますが、これまで持っていた常識・価値観を疑い、懸命に事業に走り、成功を求めて最後の最後まで諦めないことが経営を成功させることに繋がると感じました。

## 第3回 経営塾開催のお知らせ

6月23日(火)16:00~(い印大会議室)

講師：株式会社Tedy 林 俊秀 代表

参加費：1人1,000円

## 農業に関する施策紹介【六次産業】

経営塾の報告とともに国や都道府県が推奨している施策についても、時折ご紹介していきたいと思えます。今回は六次産業についてご紹介致します。

### 【農林水産省で推進している六次産業について】

農林水産省では、雇用と所得を確保し、若者や子供も集落に定住できる社会を構築するため、農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど、農山漁村の六次産業化を推進しています。

#### ◆ そもそも六次産業とは...

農林水産物の生産(1次産業)、加工(2次産業)、販売・流通(3次産業)を一体化して付加価値を付けることにより農林水産業経営の発展を目指すものです。

国から設備を整える為の補助金が準備されていたり、専門的なアドバイスが受けられます。



六次産業化に取り組むために必要な情報は次の農林水産省のページに掲載されていま

す。<http://www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/6jika.html>

六次産業にご興味がある方は、石岡中央青果 担当者までお問い合わせください。